

鳴海周平の

# ぶらり旅

台湾編(前編)

2014年11月11日11時11分に、台湾のど真ん中にある湖・日月潭<sup>じつげつたん</sup>でお祈りを捧げようと思いついたのは、春頃のこと。

日月潭から車で30分ほどの埔里<sup>ぶり</sup>という街に、エヌ・ピユアとは兄弟のような会社「旭恵」があるため、2007年から何度か訪れてはいたのですが、一昨年に北海道の富良野市にある芦別岳のエネルギーと交流してから「日月潭で祈りを捧げたい」という想いが、日増しに強くなっていったのです。

「北海道のど真ん中にある芦別岳(山)と、台湾のど真ん中にある日月潭(湖)は、エネルギー的にも陰陽の関係にあり、この2ヶ所で祈りを捧げることが「融合・統合・調和」という言葉に示される「新しい時代」の到来を象徴する意味合いを持つ」

2013年の「エジプト祈りの旅」と同じく、遙か昔に約束を交わした魂友たちとの「台湾祈りの旅」は、そんな想いから始まりました。



2014年の祈りで各地に現れた「北斗」と「南斗」というキーワード。埔里の地母廟では、その両方を象徴する神様が祀られていました。

埔里は、台湾全土のさまざまな宗教が総本山を構えている不思議な街。ここ地母廟もまた台湾道教の総本山的な地位を占めている重要な場所です。「賈湖宮天地堂」という正式名称が示すように、天と地、そして湖の統合を象徴する御宮でもあります。



日月潭の畔に建つ文武廟から「新生地球誕生を祝う祈り」を捧げました。



「台湾祈りの旅」メンバーの9人。滝沢泰平さんは統留くんと父子で、頼冰恵さんは有貴恵さんと母娘で参加してくれました。これも「陰陽統合」のひな形ですね。

「この祈りは、地球が新しく生まれ変わったことを祝福するお祝いのご神事である」  
 前夜の瞑想で閃いたメッセージにしたがい、メンバー全員がこころを一つにします。  
 地球上のキーポイントを示すかのようなさざまなマークがあらわれ、いままさに世界各地でおこなわれている「祈り」と呼んでいるイメージが伝わってきます。  
 点と点が線になり、線と線が面となり、どんどんつながっていく…。地球全体がやさしくあたたかなエネルギーに包み込まれた瞬間、メンバー全員が絶対的な安心感と共に「新しい時代」の始まりを確信しました。

まずは、メンバー9人で埔里の地母廟へごあいさつ。  
 なぜか、いつもよりたくさんの人たちが集まっています。  
 「なんだか今日は、とてもエネルギーが高い日だと感じてここへ来たんだ。」  
 前夜の瞑想でみえた「埔里の街へ集まるたくさんの光」を裏付けるかのような参拝者たちの返答・・・。  
 入り口にあった「やつは(八芒星)」と「十六菊花紋」のような花卉の紋様、本殿の左右に祀られている「月」と「太陽」の神様、そしてその中央に鎮座する「天」の神様、また今年の祈りのキーワードである「北斗」と「南斗」を象徴する神様が祀られてあったことも、すべて「融合・統合・調和」という今回の「祈り」を象徴しているかのようです。  
 ふだんは開いていない廟の最上階の扉が開いていたことも、この旅が一連の「仕組み」の中で運ばれている証でしょう。  
 地母廟のエネルギーも一緒に、いざ日月潭へと向かいます。  
 11月11日11時11分。  
 日月潭の畔に建つ「文武廟」からの祈り。  
 旭恵の星野忠義さん、北海道の村松祐羽さん、原芳明さんが順番にあげる祝詞に、参加者全員が想いをのせます。

まさに、新生地球誕生の祝福ご神事。心地良い余韻がしばらく続きます。  
 「さあ、これであとはもうのんびり帰るだけ？」  
 いえいえ、じつはここから本番(笑)。  
 日月潭をぐるっと一周しながら、ポイントごとに祈りを捧げていくのですが、続きは次回の後編で。



旭恵の庭でパパイヤを収穫!!



パパイヤやバナナ、マンゴーなどは、庭で自給自足なのです。



「事実は小説より奇なり」を地で行くエピソードが満載の「台湾祈りの旅」は、滝沢泰平さんの「天下泰平」ブログでも紹介されています。  
<http://tenkaihei.xxxblog.jp/archives/51901882.html>  
<http://tenkaihei.xxxblog.jp/archives/51902049.html>



また、鳴海周平オフィシャルサイト「魂の紀行」ブログでも順次紹介していく予定です。どうぞお楽しみに!!  
<http://narumi-shuhei.com/blog/>

ブログもぜひご覧ください。